

令和7年度秋田市指定文化財資料

- 1 名 称 勝平神社地口絵灯ろう祭り
- 2 種 別 無形民俗文化財
- 3 所 在 地 秋田市保戸野鉄砲町地内
- 4 保 持 団 体 宗教法人勝平神社
- 5 説 明

勝平神社地口絵灯ろう祭りは、保戸野鉄砲町に所在する勝平神社の5月の年間行事「宵宮祭」「例大祭」に合わせて2日間にわたり行われ、地口（洒落・言葉遊び）とそれに合わせた地口絵を描いた灯ろうが神社境内のほか、近隣8町内会の家々において飾られるものである。

勝平神社は、大同2年（807）、勝平山に創建されたと伝えられ、その後、江戸時代に川尻毘沙門町、八橋箱岡へと2度遷座し、明治19年（1886）の大火で焼失後に現在の場所に遷座した。

地口絵灯ろう祭りは、藩政期の文献資料「秋田紀麗」において勝平神社の前身である毘沙門堂に隣接する八橋伊勢堂で19世紀初頭に行われていたこと、明治期の文献資料「羽陰温故誌」において八橋の町全体に及ぶような地口絵灯ろうが盛大に飾られていたことが記されており、これらを踏まえれば、前身の毘沙門堂、現在の勝平神社で藩政期から地口絵灯ろう祭りが行われていた可能性は高いと考えられる。

本件は、勝平神社の現在地への遷座後、山中駒蔵、佐宗朝之助、小林徳治・寛次郎親子が地口絵の描き手となり、昭和20年代まで継続されていたが、その後描き手が不在となり行われなくなっていた。しかし、昭和40年代に神尾忠雄氏が昔の記憶をもとに地口絵を描き始めたことを契機に、神社や氏子の熱意により再開され、現在まで続けられている。

かつては、秋田市内で同様に地口絵灯ろうを飾る祭りが行われていたことは、文献資料等で把握できるが、現在も継続していることが確認できる祭りは勝平神社においてのみである。

現在は、宮司および氏子総代が中心となり、灯ろうの準備、設営を行っている。以前は、描き手は神尾氏1人であったが、最近ではほかに4人の描き手があり、制作者の育成も進んでいる。

無形民俗文化財においては、文化財単体としての価値にとどまらず、地域コミュニティの要であるとともに、文献資料等に残されにくい、かつての住民の生活文化や生活空間を解明し、復元できる貴重な文化財であるという視点が重要と考える。

勝平神社地口絵灯ろう祭りは、文書や秋田風俗絵巻などの絵画資料等とともに、藩政期の城下町の都市空間と祭礼の状況の解明に資する貴重な文化財であり、また、描き手の後継者育成が進んでいるなど地域一体となった継承が今後期待されるものである。

6 添付資料

地口絵制作および灯ろう設置状況写真

【引用・参考文献】

歴史図書社1971「六郡祭事紀」『新秋田叢書（3）』

歴史図書社1971「六郡郡邑記」「秋田紀麗」『新秋田叢書（4）』

佐々木善三郎1972「勝平神社と庶民の風刺 地口灯籠のおかしさ」『秋田さきがけ夕刊』

新秋田叢書編集委員会1977「羽陰温故誌」『第3期新秋田叢書（3）』

神尾忠雄1982「地口絵灯籠祭り 秋田市鉄砲町勝平神社祭礼」『北方風土Vol.5』

秋田県神社庁編1991『秋田県神社名鑑』

秋田市史民俗部会1995『秋田市史民俗調査報告書（一）』

秋田県教育委員会1997『秋田県の祭り・行事－秋田県祭り・行事調査報告書』

秋田市史民俗部会1998『秋田市史民俗調査報告書（三）』

伊藤晴雨著、宮尾與男編注2001『江戸と東京 風俗野史』

足立区立郷土博物館2005『特別展図録 地口行灯の世界』

秋田魁新報2022「秋田市保戸野・勝平神社の伝統行事」2022年5月11日付

秋田市2022『勝平神社の石造狛犬調査報告書』

